

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



代理人 特許業務法人池内・佐藤アンドパートナーズ あて名 〒530-6026 日本国大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番30号 OAPタワー26階	様
--	---

PCT
 国際調査機関の見解書
 (法施行規則第40条の2)
 [PCT規則43の2.1]

発送日
 (日.月.年)

26. 7. 2005

出願人又は代理人 の書類記号 H2362-01	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/J P 2005/007128	国際出願日 (日.月.年) 13. 04. 2005
優先日 (日.月.年) 13. 04. 2004	
国際特許分類 (IPC) IntCl. ⁷ G02B7/04, 7/08, 7/09, H04N5/225	
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社	

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 05. 07. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 森 竜介 電話番号 03-3581-1101 内線 3271

2V 8805

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: JP 2002-365514 A (株式会社シコー技研)
2002.12.18, 全文, 第1-5図

文献2: JP 2003-115127 A (ソニー株式会社)
2003.04.18, 【0025】-【0029】, 第2-6図

文献1には、CCDに対して光軸方向に複数のレンズを移動するための構成として、以下の構成が記載されている。

「【0012】レンズ駆動装置1は、前方レンズ2と、前方支持枠3と、前方コイル4と前方バネ5と、後方レンズ6と、後方支持枠7と、後方コイル8と、後方バネ9と、マグネット10とヨーク11とを備えており、前方コイル4に直流電流を印加することにより、前方レンズ2を前方に移動し、コイル8に直流電流を印加することにより、後方レンズ6を前方に移動するようになっている。・・・【0013】リング状の前方支持枠3は合成樹脂等の電氣的絶縁体であり、中央部で前方レンズ2を支持し、外周凸部上の後方に前方コイル4を備え、最外周部には、前方バネ5の内周部(イ)が固着されている。

【0017】図3(a)、(b)は、前方バネ5及び後方バネ9の構造を示す斜視図であり、(a)は折畳まれた状態の形状、(b)は押出された状態の形状を示している。これら前方バネ5及び後方バネ9は、半割されており、バネ性は、外力が加わらない時は折畳まれた(a)の形状を維持し、外力が加わると、押出された(b)の形状に変形する。

【0023】尚、外周絶縁リング12と内周絶縁リング13は、それぞれ、前方バネ5の外周部(ロ)と外壁11aの上端間および後方バネ9の外周部(ロ)と内壁11bの上端間に介在して、導電体であるバネとヨーク11間を絶縁している。」

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

文献 2 には、一つのレンズを、光軸方向に隔てて配置された 2 枚の渦巻きばねで支持することが記載されている。

(請求の範囲 1 - 12 について)

国際調査報告で引用された文献 1, 2 には、レンズを支持する複数の弾性体は記載されているが、光軸方向に弾性体を投影した形状が異なるように複数の弾性体を配置することが記載も示唆もされていない。